

令和 6 年 8 月 日

丹波市長 林 時彦 様

丹波市総合計画審議会
会長 杉岡 秀紀

第 3 次丹波市総合計画の策定について（答申）

令和 4 年 10 月 26 日付諮問第 5 号で本審議会に諮問のありました第 3 次丹波市総合計画の策定について、別冊第 3 次丹波市総合計画（案）のとおり答申いたします。

審議においては、アンケートやワークショップで得られた市民の意見を十分に尊重しつつ、こどもから大人まで、また地域や事業者など、どの立場から見ても分かりやすく、市民一人ひとりにとって身近に感じられる計画となるよう、慎重かつ活発な議論を進めてきました。

さらに、計画策定においては、10 年後のまちの未来を担うこどもたちをまんなかに据え、こども向けアンケートや、こどもたちがまちの未来を描く取組など、自分たちの未来を想像できるような機会を積極的に創出しました。

第 3 次丹波市総合計画（案）では、令和 7 年度からの 10 年間でめざす将来像を「まなび ときめく 丹（まごころ）の里～しあわせ輝く みんなの未来へ～」とし、私たち一人ひとりが主役となり、暮らしのなかでしあわせを実感し、誇れるふるさとをつくっていこうという想いを込めています。

将来像の実現にあたっては、人口減少・少子高齢化への備え、主体的に活躍する人材の育成、丹波市らしさの継承や、次の時代を見据えた投資・挑戦など、計画に掲げた重要視点を深く意識し、年度ごとの見直しや創意工夫によって実現性を高め、市政運営に取り組まれることを望みます。

また、この計画の概要版は、こどもたちが手に取って、まちの未来と自分の将来を重ね合わせながら学べるよう工夫されることで、計画がより活かされていくものと考えます。

そして、多様な主体の対話や参画と協働から、市民のしあわせに資する政策が推進され、こどもたちをはじめ、すべての市民にとって住みたい、住み続けたいと思えるまちが未来につながれていくことを期待します。